

平成 27 年度富山県公立大学法人評価委員会 議事録概要

1 日 時 平成 28 年 3 月 18 日 (金) 10:00～11:30

2 会 場 富山県庁 4 階大会議室

3 出席委員

[五十音順、敬称略]

氏 名	役 職 等	備 考
梅田 ひろ美	富山県商工会議所女性会連合会 会長 (株)ユニゾーン 代表取締役会長	
大谷 渡	(一社)富山県機電工業会 会長 YKK(株) 取締役副社長	
林 幸秀	国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター 上席フェロー	委員長
福田 敏男	名城大学理工学部教授 名古屋大学名誉教授	委員長職務代理
堀 仁志	堀税理士法人 代表社員 公認会計士	

4 議 事

- (1) 公立大学法人富山県立大学の業務実績に関する評価について
 - ・各事業年度終了時における業務実績に関する評価等について
 - ・業務実績に関する評価基本方針(案)について
 - ・各事業年度の業務実績に関する評価実施要領(案)について
- (2) その他
 - ・公立大学法人富山県立大学の定員増、学科等の拡充などについて

5 会議の概要

- ・司会が開会を宣し、知事政策局長より開会の挨拶
- ・司会より、林委員長に議事の進行を依頼し、以後の進行については委員長が行った。

議事事項(1) 「公立大学法人富山県立大学の業務実績に関する評価について」

<事務局説明>

資料 1～資料 4 及び参考資料に基づき、業務実績に関する評価基本方針(案)、各事業年度の業務実績評価実施要領(案)、今後のスケジュール等について説明

(委員長)

業務実績の評価には年度評価と中期目標期間評価があるが、本日、評価委員会として決定しなければならない事項は年度評価についてであり、評価基本方針(案)と年度評価実施要領(案)が提示されている。各委員の意見、質問等を求める。

(委員)

可能な限り定量的に評価できるようにしてもらえればと思う。例えば、県内定着率を6年後に10ポイント上げることを目標とし、様々な施策を実施することで、仮に1年後に2ポイント上げ、さらに2年後は4ポイントを目指すのであれば、その結果を検証し、うまく進捗しない場合には軌道修正をしないと目標の達成が難しくなる。

<事務局、法人>

- ・件数、数値だけでは評価できないもの、定性的なものも出てくると思うが、各年度の評価は中期計画を6年間で達成できるかといった観点で行っていただきたいと考えている。
- ・例示として10%上げるというお話があったが、仮に来年10%を達成するかもしれない。だが、再来年は落ちるといったこともある。委員がおっしゃるとおり、県内定着率を上げるために様々な施策を講ずることとしており、そういう施策をしていると、そうした点を評価いただいたうえで、6年後に達成できるかという検証・評価をしていただければと思う。

(委員長)

数値目標といった一つのツール、その使い方や妥当性についてもこの場で議論していく必要があると思う。一方で、数値だけでは評価できないこともある。今のご意見については、まずは法人から提出される自己点検、評価の中で数値目標があるものは当然だが、あとは記述欄においてしっかりと書いてもらうということで、法人側において考慮願いたい。

(委員)

資料4のP2の中段に法人の業務実績報告書の記載事項があるが、④の「中期目標の達成に向けて支障が生じている、又は生じるおそれがある場合には、その状況、理由等（外的要因を含む。）」とはどういうことを想定しているのか。

<事務局、法人>

例えば経済情勢の急激な悪化により、数値目標に掲げる就職内定率100%が困難となるケースや、数値目標として志願者倍率5倍台と掲げているが、今後、入学定員を増員するので、数年実績を見たうえで、5倍が過大であるということならば委員会の場で議論、検討いただくことになる。

(委員)

法人の自己評価は4段階、委員会の評価は5段階となっているが、対応関係はどのように考えているのか。

<事務局、法人>

- ・自己評価では「特筆すべき」とは言い難いところ、評価委員会の評価で認めていただければ「特筆すべき」という評価もあり得ると考え、S段階を設けた。自己評価のIV～I段階が、委員会評価のA～Dとそれぞれリンクしているイメージである。
- ・自己評価の4段階は、小項目ごとに優・良・可・不可を出すイメージであり、委員会評価は大項目の単位で、すべて優か良ならA評価、9割以上ならB評価、A評価よりもさらに優れているという評価をいただけたらS評価といったイメージである。

(委員長)

Sはいわば空振りでもいいということで、委員会評価においてはA～Dとなり、基本的にマッチングしていると考えればよい。Sは法人にとって本質的な、重要な項目、例えば県内就職率は大変重要な項目であると思うが、そういうところで期待以上にいい結果を出せば、これは大いに評価したい。そういう意味で、S評価はあった方がいいと思う。ただ、通常はなかなか出せないもので、やはりA～Dの4段階が基本になるだろう。

(委員)

9割未満がCであれば、8割でも6割でもCなのか、曖昧なのでなかなかDとはならないことが想定される。

<事務局、法人>

- ・Dについては、何か重大な改善点がある場合など、特異なケースを想定している。
- ・そもそも計画というものは、高めの目標を設定し、実現に向けて努力しようという性質を持つものと考えており、「計画どおり」というのはよくできたということになる。よって、法人としてはこの5段階評価でいえば、B評価をいただくにも努力が必要だが、Aを目指して努力するというのが基本的な考え方である。Cという評価にはならないように、また、D評価は、責任が問われるようなレベルであると思っている。
- ・例えば就職率については100%を掲げており、それ以上の数字はない。高い目標を維持することに努力する、そういった点を評価に当たっては考慮いただきたい。

(委員長)

平たく言えば、A～Cの3段階が基本で、よっぽど良い点があればS、よっぽど悪い点があればDというイメージだと思うが、法人が設立して間もない当面は、それでいいのではないか。

(委員)

評価する側としては、あまり難しく考えず、シンプルに行うことが大事だと思う。

(委員長)

- ・私からも少し意見を言わせていただく。今のご発言にもあったが、私はこういった評価といったものは長時間にわたってタイトにやるものでなく、シンプルに行うことを基本とし、一方で大事なところはしっかりと議論すべきと考える。また、資料作成などの評価の準備作業で法人側に多大な負担をかけることは決して望ましいことではない。そういった前提で今後進めていくことでお願いしたい。
- ・年度評価を行うにあたり、とりあえず6年を一つの基準と考えれば、来年とはいわないがいつかの時点で現場を見て、現場で評価を行う機会を設けることを検討願いたい。
- ・それでは最後に、資料3の基本方針(案)、資料4の実施要領(案)について、この内容で評価を行うということに関し、ご意見があればお伺いしたい。

(委員)

文言上はこれで問題はない。あとは評価する我々の意識合わせということになると思うので、実際に評価を行う場で協議していけばいい。

(委員長)

了解した。他にご意見がないようなので、当委員会としては原案どおりということで決定とする。

議事事項(2) 「その他」～公立大学法人富山県立大学の定員増、学科等の拡充について～

<法人説明>

資料5に基づき、県立大学の定員増、学科等の拡充について説明

(委員長)

ただいまの説明について、意見、質問等があればご発言いただきたい。

(委員)

県内産業への人材供給に関し、実態に即した取組みがなされており、大変評価できる。今後、実効性をあげていくためには、教職員の方々に企業、工場見学などをしてもらうことで、教職員の方々と学生の両者の理解が深まると思うので、ぜひお願いしたい。

<法人>

来年度には、教授も含め、企業、工場見学等に出させていただく予定にしており、こちらとしても積極的に行っていきたい。

(委員)

大人が子どもに県立大学への入学を積極的に勧めるように、これからは大人に対しても県立大学の魅力を伝える取組みが必要。

(委員)

県内定着のためにインターンシップ等を実施していると思うが、早い学年の段階で実施することが大切。

<法人>

- ・インターンシップについては、受入れ企業側の事情にも配慮して、充実させていきたい。
- ・女子が多い看護学部が新設される。男子が多い工学部の学生とサークル活動等を通じてコミュニケーションを深めることで、県内定着につながることも期待している。

6 事務連絡 次回以降の評価委員会の開催日時について、各委員の同意を得て決定

7 閉会 11時30分、議事が終了したので、委員長が閉会を宣した。